

滋賀県栗東市の自治会活動からみる生活圏の可視化

岡部佳世*・森岡渉**・笠井賢紀***・中川敦之****・竹山和弘*****・松本章伸*****

Visualizing daily neighborhood space of Ritto City in Shiga Prefecture using Leaflet

Kayo Okabe*, Wataru Morioka**, Yoshinori Kasai***, Atsushi Nakagawa****, Kazuhiro Takeyama*****,
Akinobu Matsumoto*****

The objectives of this study are to examine daily neighborhood space in Ritto City in Shiga Prefecture, and visualize the space on web maps using Leaflet, a JavaScript library. First, we show the survey entitled “The questionnaire survey on Sagicho” which investigated the lifestyle of residents of Ritto City. The questionnaire was delivered to all 124 local communities ‘jichikai’ in Ritto City, to ask about their activities in managing and participating in the traditional festive event called Sagicho. Second, we explain the advantages of using Leaflet in visualizing the results of the questionnaire. Third, with charts and web maps, we describe our findings, focusing on the spatial characteristics of the neighborhood space in Ritto City. Last, we state conclusions and future perspectives.

Keywords: 近隣生活圏 (neighborhood living space), 滋賀県栗東市 (Ritto City, Shiga Prefecture), 自治会 (neighborhood community), リーフレット(Leaflet)

1. はじめに

本研究の目的は、自治会の活動から生活圏を明らかにし、その生活圏を、グラフや Leaflet を用いて可視化することである。本稿は4節よりなり、続く第2節では、生活圏を自治会単位の活動から推し量る。そのために栗東市の全自治会を対象に実施された「左義長についての質問紙調査」に基づいて、生活圏と地域の歴史とのつながりについて考察する。第3節では、そのアンケート調査の主要な結果の可視化をおこなう。可視化を通して、従来の生活史調査では見えてこなかった空間的視点を明らかにする。最後に、まとめと今後の展望を述べる。

2. 栗東市自治会と日常生活圏

栗東市は、滋賀県南部に位置する人口 70,346, 世帯数 28,816 (2021), 面積 52.75 km²の自治体である。1889年に町村制により成立した金勝村、葉山村、治

田村、大宝村の4村の村域を合わせた地域が、現在の栗東市の市域とほぼ重なっている。したがって、民俗学的にも社会学的にも、地域の生活の継続性を観察でき、時系列的な史資料の検討も可能な地域である。

2.1 栗東市自治会と大字

栗東市には現在 124 の自治会が存在し、活動している。その自治会への参加率は、全世帯の9割と非常に高い。栗東市小学校の通学区域の指定には、一般的に使われる住区表記の代わりに自治会名が使われている。このことにも見られるように、栗東市民の日常生活圏における自治会の役割は大きい。

まず、明治の地図にある大字名が、どのくらい自治会名に使用されているかを調べてみた。図1は明治22年(1889)における現在の栗東市域4村と大字の地図である。

* 正会員 株式会社ラトルン (LatLng Co)

** 学生会員 Department of Geography and GIScience, University of Illinois at Urbana-Champaign

*** 非会員 慶應義塾大学法学部 (Keio University)

**** 非会員 栗東歴史民俗博物館 (Ritto History Museum)

***** 非会員 NPO 法人くらすむ滋賀 (NPO Kurasumu SHIGA)

***** 非会員 日本学術振興会 (Japan Society for the Promotion of Science)



図1 旧4村と大字(1889)

地図には、旧4村名と34の大字名が記されている。現在の自治会名には、図1にある31の大字名がそのまま使用されており、そうではないもののうち2つの自治会(御園、高野)は大字以前の村名を使用していることが分かった。つまり、大字名や古い村名という地域の伝統的な呼称が、地域の生活にその名残を留めている。江戸期から明治期へと継承された地区のまともりは、その名称と空間的な認知を通して、現在の栗東市の日常生活圏に継承されている、と言っても過言ではない。

2.2 生活史調査と左義長

上述のような自治会を対象としたアンケート調査が、本研究で扱う「左義長についての質問紙調査」

(2017年実施)である。詳細な聞き取りによる生活史調査から始まり、全自治会への調査票配布による調査実施へ至る経緯は、笠井(2019)の『栗東市の左義長からみる地域社会』にまとめられている。

左義長とは、小正月に長い竹を組んで立て、正月飾りを燃やす「どんど」とも呼ばれている、全国各地で古くから行われている行事である。2012年から地域づくりの実践活動や調査にかかわってきた笠井らが、地域の人々との会話でたびたび耳にする言

葉の一つが「左義長(サギッチョ)」であった。この左義長の変化こそ、地域社会の生活の変化を知ることのできる事例である、と認識した。



図2 目川地区の左義長(2017/1/14 笠井撮影)

2.3 質問紙調査

調査は、A票「基礎調査」、B票「2018年の左義長について」、C票「過去の左義長について」、D票「左義長に関する地図/今後の左義長について」の4票構成である。

左義長は神事ではあるが、現在は、地域の小さな行事として自治会が主催している事例が多いことも判明したので、121自治会(3自治会統合し1回答)の各会長に回答を依頼した。手間のかかる設問にも関わらず、82%という高い回収率を得た。地域社会の「左義長」への高い関心が伺える。

2.4 旧村ごとの実施変遷の概略

A票「基礎調査」、B票「2018年の左義長について」の結果の表示には、後述するLeafletを用いた。この2節では、質問紙C票の年表部分とD票の地図部分から読み取れることを概観する。

C票の年表部分は3表に分かれている。ここでは開催頻度、実施日、実施時間、実施場所、担い手、資材とその集め方について回答する第1表「左義長について」(1940年から現在)の内容を述べる。なお、第2表「自治会のある地域について」は地域の自治組織、地域子ども組織、地域の青年組織、地域の女性組織、伊勢講について、第3表「その他」は回答者が重要だと思う変化について自由に書き込むものである。

D票の地図部分は、枠内に回答者が自由に地域の地図を書き込むものである。凡例には自治会館、左義長場、竹の採取地などが印字されているため、こ

してみた。ここでは「継続実施」・「実施経験なし」・「過去に実施経験あり」の3回答の割合を、世帯数50ごとの帯グラフで表現した。

グラフより次の3点が読み取れる。①世帯数が555以上の規模の大きい自治会は、すべて実施している。なお、世帯数600の帯にある「過去に実施経験あり」の自治会は日本中央競馬会トレーニングセンター社宅で、その世帯数は554である。②実施するか否かの分岐は、450世帯数付近にある。③継続して実施する自治会は、規模によらない傾向が見える。

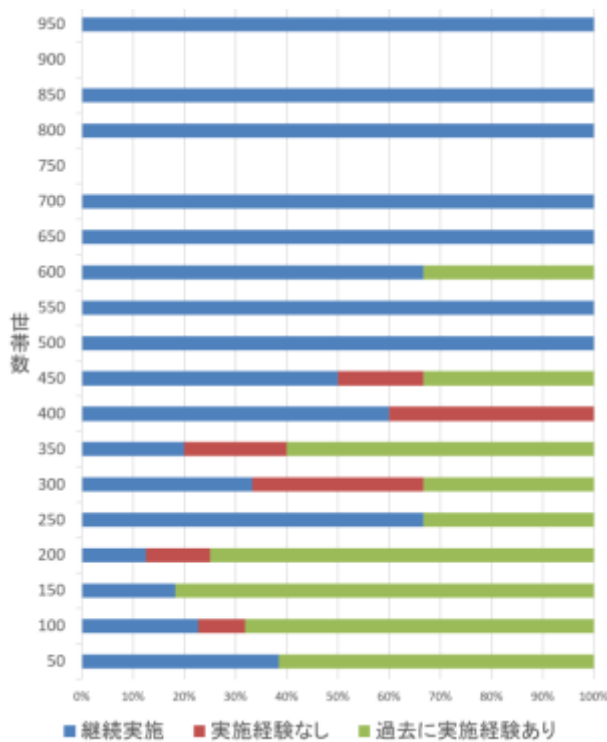


図5 左義長実施と自治会規模（世帯数）

「実施経験なし」と回答した自治会は、近年作られた自治会であり、マンションまたは住宅団地が多いという特徴がある。

③の「継続実施」が自治会の規模に拠らないという結果は予想外であった。実施には、世帯数の多少、つまり自治会の規模よりも、地域の歴史や生活する人々の意識の違いなどが大きい要因である、と考えられそうである。

3.2 Leaflet の3つの機能

Leaflet は、2011年にリリースされたオープンソースのJavaScriptライブラリである。昨年9月には、

タッチスクリーン対応の改良最新バージョン 1.7.1が発表され、近年多くの利用者を得ている。本研究でも、①Google Maps API と違って無償である点、②JavaScript のコーディングがシンプルである点、③インタラクティブな Web 地図が作成できる、という3点と、Web 地図の公開を予定している本研究主旨にも合致する点から、使用した。

3.3 インタラクティブな地図と JavaScript コード

背景地図として、国土地理院の地図や地理院タイルなどからストリートマップに至る各種地図を、作成者が自由にカスタマイズできる。そこで今回は、インタラクティブな特性を生かして、10種類の背景図を、ユーザーが選択できるようにプログラムした。国土地理院提供の空中写真（地理院タイル）で栗東市が撮影されている一番古いものは1961-1969である。選択肢に含めた。レイヤアイコンをクリックすると、選択可能なラジオボタンが表示される。

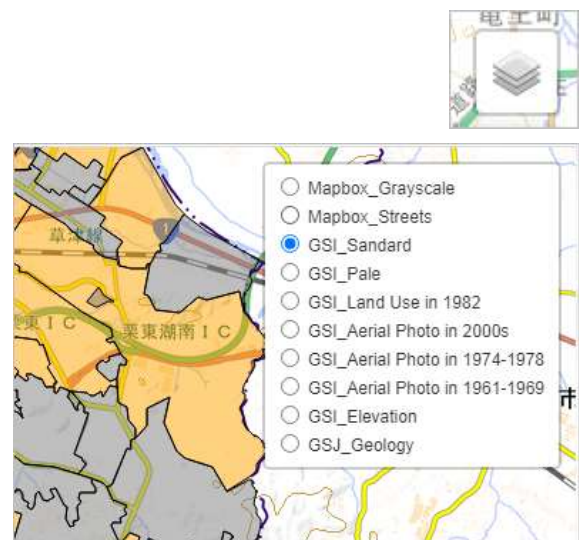


図6 レイヤアイコンと背景図（10種）選択ボタン

国土地理院地図を表示させる基本的なコードは、

```
L.tileLayer('https://cyberjapandata.gsi.go.jp/xyz/std/{z}/{x}/{y}.png',
  {attribution: "<a href='https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html' target='_blank'>地理院タイル</a>"
})
).addTo(map)
```

 となる。

3.4 左義長実施図

自治会ポリゴンに、左義長の「継続実施」「実施経

験なし」「過去に実施経験あり」をシンボル表示した。

Leaflet では、JSON 形式のデータを読み込んで、ポイント、ライン、ポリゴンを、背景地図上に自由に表示することができる。

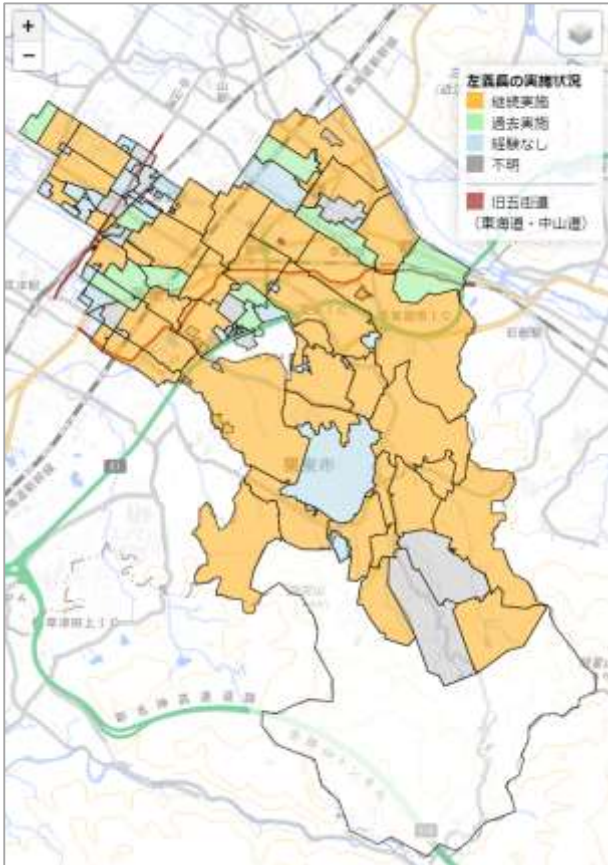


図7 左義長の「継続実施」自治会

地図上の自治会ポリゴンをクリックすると、図8のように、ポップアップ窓に、自治会名と左義長実施日が表示される。



図8 ポップアップ窓

JSON ファイルを読み込むための JavaScript のコード（一部）は、次である。

```
L.geoJSON(Jichikai, {style: my_style,
  onEachFeature: function(feature, layer) {
    layer.bindPopup(
      '<div class="popup">' +
      feature.properties.Name + '<br>' +
      '<b>' + feature.properties.Date + '</b>' +
      '</div>'
    );
  }
}).addTo(map);
```

html ファイルに上のように JavaScript コードを記述して JSON ファイルを読み込むためには、GIS ファイチャファイルがこの JSON や GeoJSON 形式ファイルに変換しなくてはならない。ArcGIS あるいは QGIS からエクスポートすることで変換可能である。

栗東市域には、東海道と中山道の2街道が東西に通っている。図7には、2街道のラインデータを追加した（上方が中山道、中央部分が東海道）。

図から、東海道沿いと中山道沿いの自治会の実施状況について次の2点が指摘される。①中山道を含む6自治会のうち、「継続して実施」は2自治会。

「経験なし」が1、「無回答」が3自治会である。周辺の自治会でも「経験なし」が目につく。JR 栗東駅の存在が生活圏に大きい変化を与えたと推察される。

②東海道を含む10自治会では9自治会が「継続実施」していることが分かる。伝統色の強い地域と言える。草津宿から石部宿に至るこの街道筋では目川立場の「田楽」が有名であった。



図9 目川立場の「田楽」(伊勢参宮名所図会)

3.4 左義長で燃やすもの

B表6の設問「どのようなものを燃やしますか(複数回答可)」では、回答の多かった順に、おふだ、門松、注連縄、書き初め、お守りであった。地図には、5品目すべてを燃やす、一部を燃やす、未回答の3種類に色分けして、ポップアップ窓には自

治会名と品目を表示した。



図10 左義長では何を燃やしますか

継続実施していても、この設問への回答のなかった自治会もある。しかし例えば六地藏自治会では、中学生たちが各戸を回って燃やすものを集めるという回答もあった。笠井(2019)によると、栗東の伝統的な左義長の特徴は、子ども社会が主体となって企画する点にある。子ども達は冬休みに入ると年長のリーダーを中心に、竹を括る藤蔓や藁や竹を集めて準備を始める。そして当日、子ども達に頼まれた大人が左義長を立て、燃やすという段取りだったようだ。年長のリーダーと子ども達、そして大人が協働したユニークな祭りであった。地域の絆を高めたであろうことは、容易に想像できる。

4 まとめと今後の展望

以上の議論は、大きく次の3点にまとめられる。まず、左義長調査に見える変化は、地域の生活圏の変化でもある点。次に、左義長実施有無のデータか

らは、実施の有無に自治会の規模(世帯数)の大小は決定的な要素ではない点。むしろ自治会単位とは別な単位、たとえば街道筋地域住民の誇り、あるいは地域リーダー的人材の存在なども、地域のまとまりに影響を与えると考えられる点。そして、Leafletを使ったWeb地図は可視化ツールとして有効であるという点。

人文学研究者とGIS研究者との共同プロジェクトである本研究では、共同作業の中で、大字や自治会よりも小さい地域単位を知ることのできる字限図の発見があった。所蔵する栗東歴史民俗博物館からは撮影許可をいただいた。さらに『栗東町史』編纂のためにおこなわれた民俗調査では約40種類に及ぶ講の存在も確認できている。土地に刻まれた詳細なデータのGISデータベース化と、地域の日常近隣空間について時系列空間分析をおこない、Leafletを使用したWeb地図の公開を目指している。



図11 字限図(目川の一部)

謝辞

本稿をまとめるにあたり、立命館大学アート・リサーチセンター「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際共同研究拠点(ARC-iJAC)」から研究費の支援をいただいた。感謝する次第である。

参考文献

- 笠井賢紀(2019)『栗東市の左義長から見る地域社会』、別冊淡海文庫、32、サンライズ出版。
- Leaflet URLは、<https://leafletjs.com/>
- 伊勢参宮名所図会、寛政9年 国会図書館所蔵
- 字限図 栗東歴史民俗博物館所蔵